

史跡岡山城跡本丸下の段現地説明会資料

岡山市教育委員会

日時：平成26年1月25日（土）

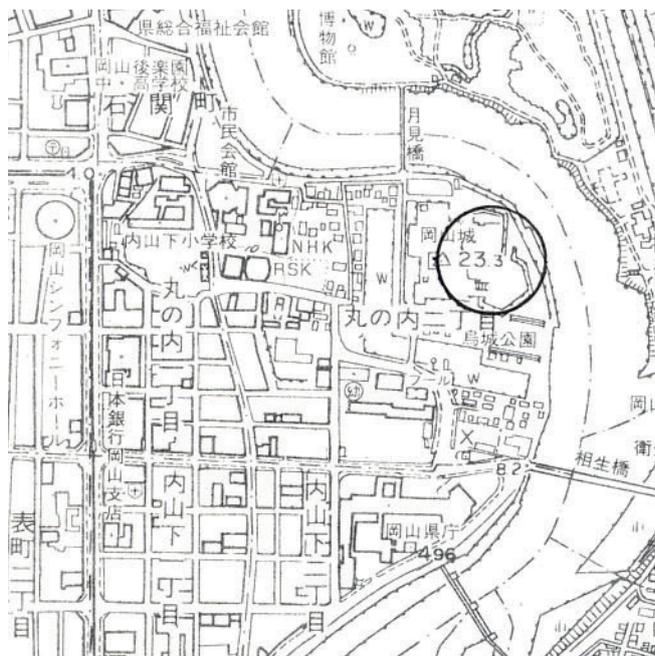
場所：岡山市北区丸の内2丁目地内（史跡岡山城跡）

はじめに

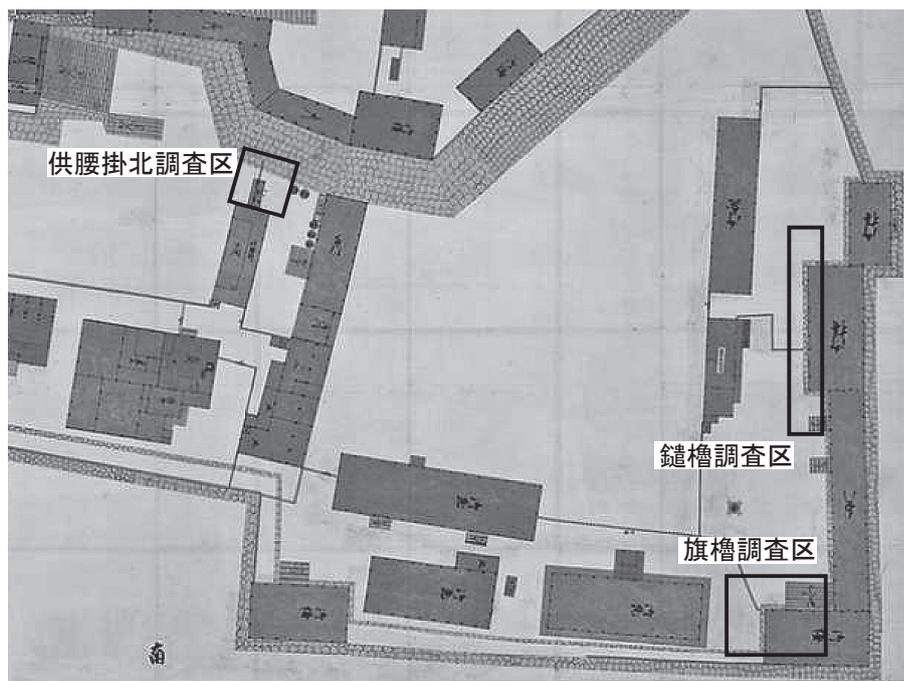
岡山市教育委員会では、史跡岡山城跡の保存整備事業の一つとして、平成25年11月より本丸下の段（テニスコート跡地）の発掘調査を行ってきました。このたび調査がほぼ終了したため、発見された遺構や遺物を公開することになりました。

調査成果の概要

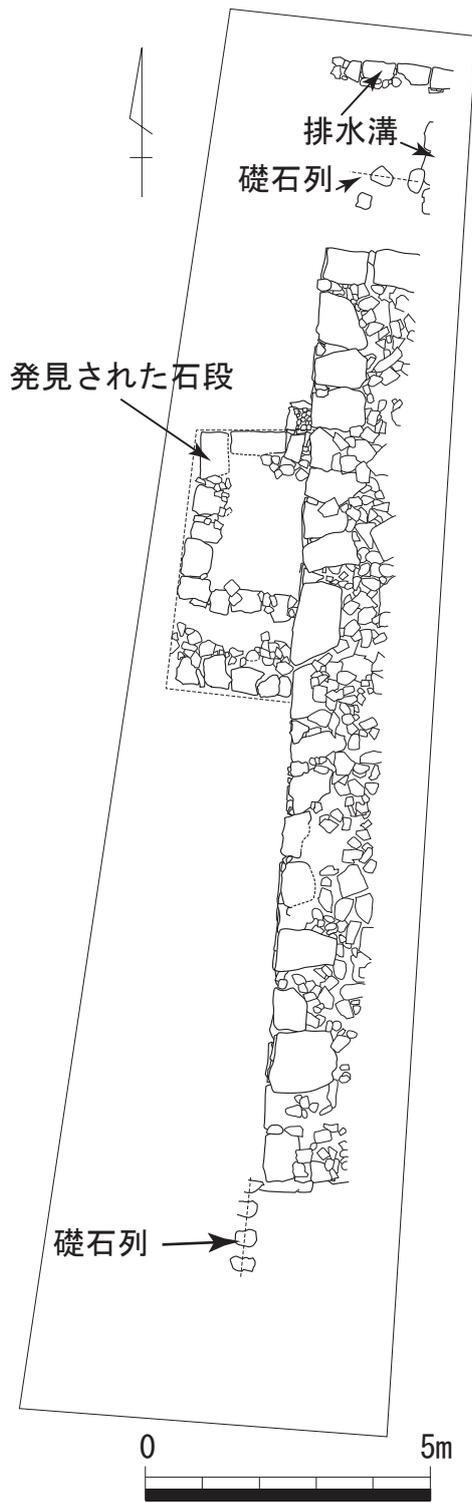
今回の調査は、本丸内の建物配置を描いた、元禄十三（1700）年作成の『御城内御絵図』に見られる、「鐘櫓」（鐘櫓調査区）「旗櫓」（旗櫓調査区）及び平成22年度に調査を行った「供腰掛」（供腰掛北調査区）北側に描かれた門（供腰掛北調査区）の残存状況を確認するのが主な目的です。



岡山城本丸下の段の位置



『御城内御絵図』と調査区の位置



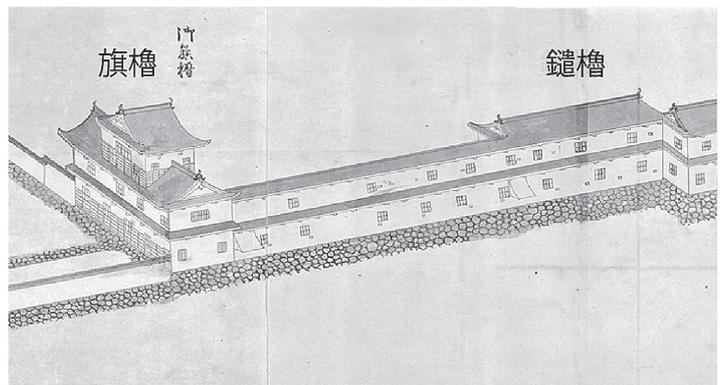
礎石調査区

礎石調査区

礎石調査区では、現在では埋没してしまっている礎石を確認することができました。礎石は、旧制中学の建設に伴う工事で上のほうは壊されていましたが、『御城内御絵図』に描かれているように、長さ17mほどの南北に細長い形をしています。

また、絵図に描かれていない石段や、礎石の軒を支えていたと思われる礎石列も確認されました。出土した陶磁器から、この石段は1700年以降に作られ、江戸時代の終わりまで使われていたと思われます。

さらに内石垣に付属する排水溝なども確認されました。



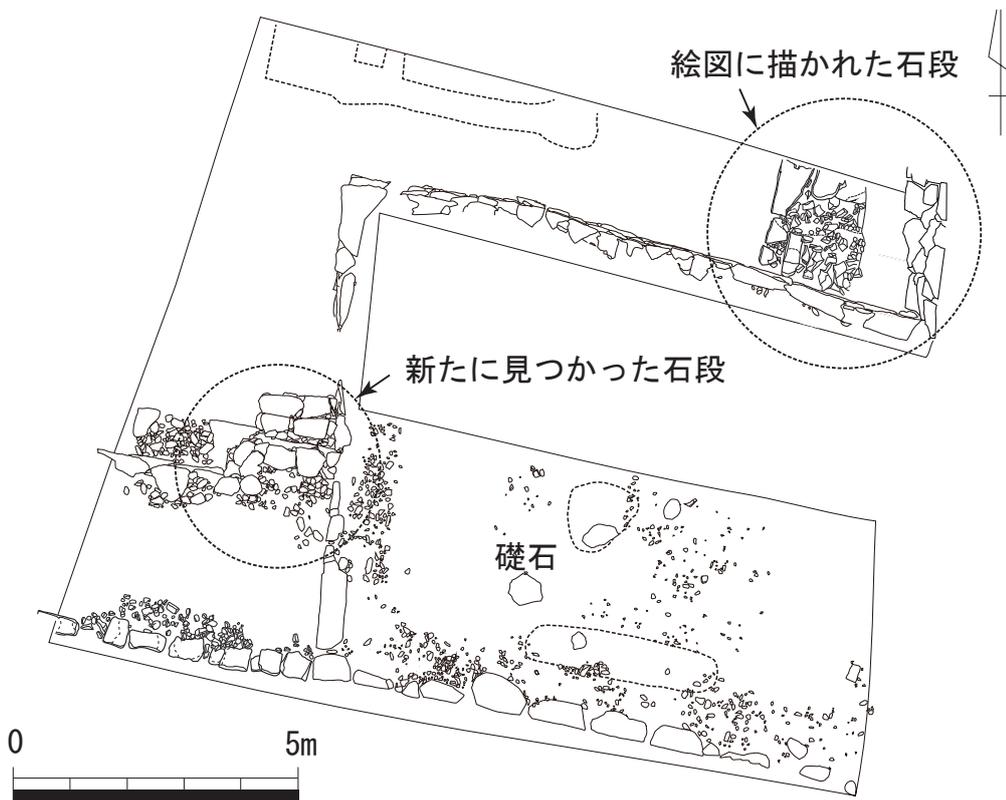
牙城郭櫓実測図（作成年未詳）

旗櫓調査区

旗櫓の礎石は、調査の前から地面から50～60cmの高さで姿を現していました。調査の結果南北約10m東西12m以上、高さ2m以上の礎石であることがわかりました。また礎石の西側からは、内石垣に登る絵図にない3段の石段が、礎石の北側の1mくらい深い部分からは、『御城内御絵図』に描かれて

いる石段がそれぞれ見つかりました。絵図に描かれた北側の石段は出土した陶磁器から1700年以降に使われなくなり、その後礎石の西側に小さな石段が作られ、江戸時代の終わりまで使われていたようです。

礎石の建っていた礎石の上は、後の世に削平されていますが、礎石と思われる平たい石がいくつか残されています。



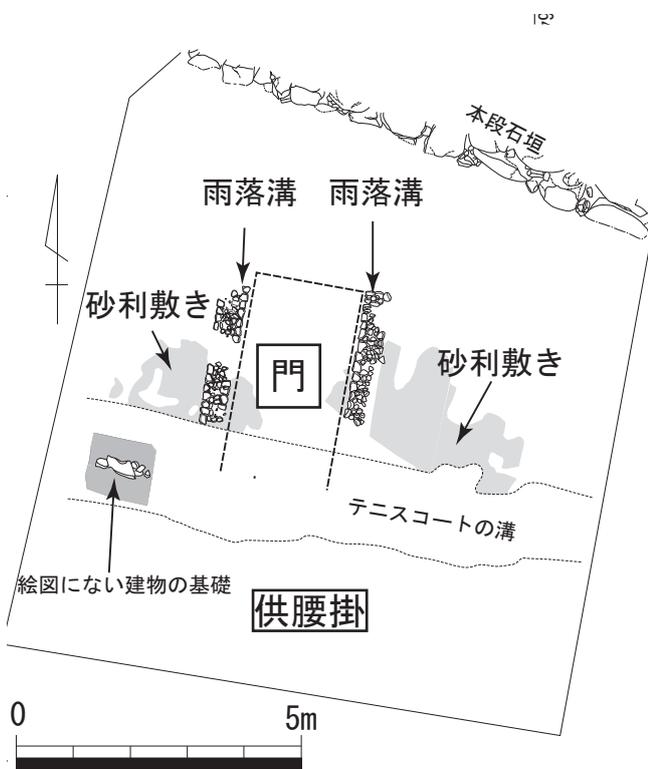
旗櫓調査区

供腰掛北側調査区

『御城内御絵図』には、供腰掛の建物と本段の石垣との間に塀がありその間には門が描かれています。礎石や塀の跡は残っていませんでしたが、門の屋根に降った雨水を流した雨落溝が見つかりました。

雨落溝は、丸い石を幅 30 cm 位に細長く並べたもので、約 2.5 m の幅で並んでいます。この場所に幅 2.5 m 位の屋根のある門があったと考えられます。

雨落溝の周辺には供腰掛の建物のそばまで、細かな砂利が敷かれており、石垣近くの水はけの悪い部分を歩きやすくするための工夫がなされています。この門は少なくとも



供腰掛北側調査区

て 1700 年頃には建てられており、江戸時代の終わりまで使われていたようです。